

腰椎椎間板ヘルニアについて

【原因】椎間板変性を基盤として、髄核を取り囲んでいる線維輪の後方部分が断裂し、髄核が飛び出し、神経根を圧迫して炎症を引き起こします。原因はスポーツ、重量物の挙上や体を捻る動作などにより椎間板に負荷や外力が加わることで生じます。

【症状】

腰痛や片側の臀部痛や下肢痛が主症状となります。靴下履き動作など前屈動作が困難になります。運動麻痺を生じることもあり、稀に巨大なヘルニアでは排尿障害などを生じる事もあり手術が必要となります。

【治療】椎間板ヘルニアで後縦靭帯を破る脱出タイプは、3-6か月で縮小または消退する可能性があります。神経麻痺がなければ、一般的には末梢神経障害性疼痛に効く薬や消炎鎮痛薬の投与が治療の基本となります。症状に応じて神経ブロック療法を行い社会復帰やスポーツ復帰を目指します。しかし、保存的治療で除痛効果が得られず、疼痛のため日常生活が脅かされるときや麻痺が出現してきた場合には手術を考慮します。

☆ 腰椎椎間板ヘルニアの手術療法について

手術は顕微鏡を用いて約3cmの小切開で手術を行います。椎弓の骨を少し削り黄色靭帯を切除してから、神経根を内側に引き寄せ、飛び出したヘルニアを取り除きます。



手術の際の皮膚切開

顕微鏡視下ヘルニア摘出術

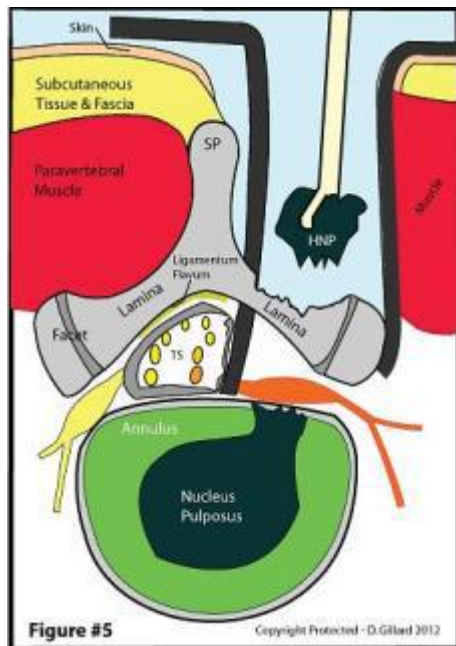
☆ 後療法について

手術後は創部に血液がたまらないようにドレーンをいれ1日で抜去します。

術後2日目には車イス、3日目で歩行訓練を行います。

入院期間は合併症がなければ約10日～2週間です。

デスクワークは1ヶ月で許可しています。重労働は術後3カ月から許可しています。



顕微鏡視下ヘルニア摘出術
のシエーマ